

農人伝

女性が活躍するサポテン専任経営

野末 信子 ③

静岡・浜松市



結婚前、野末さんの実家で

20歳で結婚し、野末家へ

多品目生産で農作業に追われた20代

高校卒業後、地元農協に就職し、2年後、青年団活動で知り合った農家の夫と20歳で結婚。父の期待どおりにになりましたね(笑)。

とにかくよく働く家

ただ、結婚してみたら野末家はけっこう保守的で、義父は厳格な軍国主義者。「農家の嫁はこうあるべき」という「べき」がたたくさんあって、最初は戸惑いしました。

それと、とにかくよく働く家だったんです。実家と同様に温

たんです。梨の収穫期は食事も家族一緒でなく、作業の合間に交代制。梨の袋かけや摘果の手伝いに来た実家の母が「あんたの家は本当によく働くのう」と驚いていました。

その間、3人の子どもに恵まれ、農作業に育児も加わりました。畑に子供のベッドを置いて作業して、考える間もなく、次

託牛」でない「自己牛」と当時と呼ばれました。1頭当たりの利益は約10倍です。ただ、当初は農協からならまれてね(笑)。隠れるようにやっていたら、肉牛相場が下がったとき、当時の組合長が「野末のようにやらないともうからない」と言ってくれて。その後、子牛を市場で買い付ける方が出てきました。

牛の収入で自分の貯金も

州ミカンも栽培していましたが、その農閑期を埋めるように、梨、米、茶なども手がける多品目生産。20頭ほどの肉牛肥育もやっていました。

家計は基本的に義父が握っていましたが、牛の売却金だけは、夫の口座に入りました。その通帳を、夫はポンと私に渡してくれました。その収入を夫と私の口座に分けて貯金していました。

ミカンの収穫後は梨の剪定、次に田んぼの準備、お茶の収穫、田植え、梨の摘果、袋かけ、稲刈り、梨の収穫、そして肉牛の世話…。

後に各地の女性農業者の話を聞くと、若い頃から自分の貯金を作れたのは、当時の農家の嫁としては珍しかったかもしれませぬ。

本当に1年中、休みがなかつた。

そこで、畑で上げた利益を全部牛につき込み、直接市場から子牛を買い始めたんです。「預

せぬ。構成 神田みどり